

第53回大阪国際フェスティバル2015

大阪音楽大学創立100周年記念

大阪国際フェスティバル×フェスティバルホール×ザ・カレッジ・オペラハウス×藤原歌劇団×日生劇場×東京フィルハーモニー交響楽団による共同制作

フェスティバルホールでオペラ



ロッシーニ 2015年春満開

世界が敬愛するマエストロ・ゼツダの芸術
歌はときめき 究極の饗宴が始まる

Gioachino Rossini

イタリア・ベルカント・オペラの金字塔

IL VIAGGIO
ARREIMS

ロッシーニ作曲

オペラ

「ランスへの旅」

新演出

(原語上演・日本語字幕付き)
休憩を含み上演時間約3時間

2015年 4月18日(土) 15:00開演 (14:00開場)
フェスティバルホール

チケット一般発売
2014年
11月30日(日)
10:00~

イタリア・オペラの巨匠アルベルト・ゼツダ
(2014年5月、大阪・フェスティバルホールにて)



19世紀ヨーロッパを熱狂させた男、ロッシーニ最高の祝典的オペラ

フェスティバルホールでオペラ——2015年春は、イタリアのベルカント・オペラの金字塔、ロッシーニ作曲オペラ「ランスへの旅」(新演出)を皆さまにご披露します。
大阪国際フェスティバルとフェスティバルホール、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス、日本オペラ振興会(藤原歌劇団)、日生劇場(東京公演)、東京フィルハーモニー交響楽団(東京公演)が結集し、新たなロッシーニ芸術の共同制作にチャレンジします。
オペラ愛好家の聖地、イタリア中部の町ペーザロで毎夏行われるロッシーニ・オペラ・フェスティバル(アカデミア・ロッシニアーナ)と、“ロッシーニの神様”と世界中の音楽家たちが敬愛する指揮者アルベルト・ゼッダの全面的な協力のもと、今が“旬”の歌手達による煌びやかなベルカント歌唱の饗宴です。
超絶技巧と豊かな音楽性が要求されるロッシーニの沸き立つ音楽は、きっと皆さまの耳と心を捉えて離さないでしょう。



Gioachino Rossini

ジョアキーノ・ロッシーニ(1792-1868)

イタリア・オペラの基礎を築いた大作曲家。1792年2月29日ペーザロ生まれ。父はホルン奏者、母はソプラノ歌手。10歳で最初のオペラを作曲。1810年の「結婚手形」により18歳でオペラ作曲家としての活動を開始。次々とオペラ・ブッファ作曲の依頼が舞い込むようになり、ミラノやヴェネツィア、そしてナポリで多忙な創作活動の日々が続く。その名声はイタリア国外にも広まり、ヨーロッパ中で一世を風靡し、フランスの作家スタンダールやバルザック、音楽家ベートーヴェンら多くの文化人や貴族たちを熱狂させた。1824年にパリへ移住。翌1825年に国王シャルル10世の戴冠式のために「ランスへの旅」を作曲。生涯に39のオペラを残した。

成功の絶頂期にありながら37歳でオペラ界から突如引退し、その後は美食レストランの経営と養豚業を営む。1868年11月13日、パリ近郊で死去。盛大な葬儀には多くのロッシーニ信奉者たちが参列した。莫大な財産は生地ペーザロ市が相続し、ロッシーニ音楽院とロッシーニ財団が創設された。

オペラ「ランスへの旅」とは

1825年に挙行されたフランス国王シャルル10世戴冠式のために、絶頂期のロッシーニが作曲した祝典的オペラ。パリでの初演は、国王臨席のもと、スター歌手が総出演して豪華絢爛を極めた。上演には超一流の歌手が必要なこと、国王のための特別公演だったことから、ロッシーニはその後の再演を禁じたという。

初演後に自筆譜が失われていたが、1980年代初頭にローマやパリで相次いで楽譜などの貴重な資料が発見され、“幻のオペラ”が蘇った。

そして1984年夏、イタリア・ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルで、ついに159年振りに復活上演される。指揮はあのクラウディオ・アッパード。錚々たる歌手が顔をそろえての世紀の瞬間だった。ここから“ロッシーニ・ルネサンス”が瞬く間に沸き起こり、今日では数多くのロッシーニのオペラが世界中で上演されている。

本公演の指揮者アルベルト・ゼッダはこの歴史的イベントの仕掛け人である。そして、記念碑的作品「ランスへの旅」を知らずしてイタリア・オペラは語れない。

IL VIAGGIO A REIMS

あらすじ

ナポレオン失脚で王政復古を果たしたフランスの、有名な保養地プロムビエールにある温泉宿「金の百合亭」。各国の貴族たちは国王戴冠式が行われるランスへ旅立とうとしている。宿の女主人コルテーゼ夫人、女中頭マッダレーナ、侍医ドン・ブルデンツィオ、流行のモードに夢中なフォルヴィル伯爵夫人、熱烈な音楽愛好家トロンボノク男爵、骨董マニアの文学者ドン・プロフォンド、スペインのイケメン提督ドン・アルヴァーロ、ポーランドの未亡人メリベア侯爵夫人、ロシアの將軍リーベンスコフ伯爵、ローマの女流即興詩人コリンナ、生真面目なイギリスの軍人シドニー卿、フランスの騎士ベルフィオーレ…。歌あり、恋のさや当てあり——魅力的な登場人物たちが他愛もないドタバタ喜劇を繰り広げる。

ところがVIPたちをランスへ連れていくはずの馬が、手違いで手配出来ないことが発覚し、一同大騒ぎに。はたして…。

Alberto Zedda

アルベルト・ゼッダ
(指揮者/ロッシーニ・オペラ・フェスティバル芸術監督)

1928年ミラノ生まれ。人文学と音楽を学ぶ。1957年イタリア国営放送の指揮者コンクールに優勝して国際舞台へ。音楽教育法およびオペラ研究に献身的に取り組み、特にロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ作品の出版・編纂への貢献は高く評価される。ロッシーニ作品のクリティカル・エディションの編纂によって世界的評価を確立。1984年にクラウディオ・アッパードと有名歌手によるロッシーニの幻のオペラ「ランスへの旅」の復活上演を仕掛け、“ロッシーニ・ルネサンス”の立役者として、その名を世界的に知らしめた。ミラノ・スカラ座、カルロ・フェリーチェ歌劇場(ジェノヴァ)の芸術監督を歴任。現在はロッシーニ・オペラ・フェスティバル芸術監督などを務める。

ロッシーニ・オペラ・フェスティバル(アカデミア・ロッシニアーナ)

ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルに併設されているロッシーニの歌唱を学ぶためのアカデミー。世界各地から若手歌手がそのオーディションを目指し、狭き門をくぐり抜けた受講者(プロの歌手も多い)は、無償でレクチャーと実技レッスンを受ける。創立時からディレクターを務めるアルベルト・ゼッダが直接指導に当たるほか、ファン・ディエゴ・フローレスら著名歌手のマスター・クラスも行われる。毎年、音楽祭期間中に上演されるアカデミー



毎年ペーザロの音楽祭で上演される「ランスへの旅」の舞台。未来のスター歌手を探しにオペラファンやエージェンツらが詰めかける。
©Studio Amati Bacciardi

修了生による「ランスへの旅」は、観客に大人気の呼び物。アカデミーは、ダニエラ・バルチェッローナ、アントニーノ・シラグーザ、オルガ・ベレチャッコら今や世界を舞台に活躍する優れたロッシーニ歌手を多数輩出してきた。

本公演出演の外国人歌手4人もアカデミア・ロッシニアーナの出身者である。

The College Operahouse

大阪音楽大学
ザ・カレッジ・オペラハウス



2010年7月、モーツァルト作曲オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」の舞台

1915年、大阪市南区塩町に西日本初の音楽学校として開校した「大阪音楽学校」が前身の大阪音楽大学は、数多くの優秀な音楽家を輩出してきた。1989年に敷地内に建設された本格的な歌劇場「ザ・カレッジ・オペラハウス」が開館。その前年には、専属のプロフェッショナルなオーケストラ、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

が発足する。毎年オペラを新作制作している。1999年に東京と大津で黛敏郎作曲「金閣寺」を上演し、音楽クリティック・クラブ賞を受賞。2005年10月、松村禎三作曲「沈黙」公演で文化庁芸術祭大賞受賞。2011年にはブリテン作曲「ねじの回転」で再度、文化庁芸術祭大賞に輝く。2013年10月、ブリテン作曲「ピーター・グライムズ」で三菱UFJ信託音楽賞受賞など、意欲的な上演活動は高く評価される。

オペラ「ランスへの旅」公演記念満喫講座シリーズ

オペラ「ランスへの旅」をまるごと楽しんでもいただくための多彩な講座を開催します。講座とオペラ公演チケット(S席)のセット券を販売します。各講座とも申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。お早めにお申し込み下さい。
(お問い合わせ)朝日カルチャーセンター中之島 TEL06-6222-5222 (ホームページ) <http://www.asahiculture.jp/>

第1回「学ぶ」篇

ロッシーニって誰?~19世紀ヨーロッパを熱狂させた作曲家~

日時:2015年1月27日(火)15:30~17:00
会場:朝日カルチャーセンター 中之島教室 講師:岸 純信さん(オペラ研究者)

第2回「聴く」篇

ロッシーニの魅力と「ランスへの旅」の聴きどころ

日時:2015年2月13日(金)15:00~16:30 会場:アサコムホール
講師:園田隆一郎さん(指揮者・「ランスへの旅」音楽補佐)ほか

主催:朝日新聞社、朝日新聞文化財団、朝日カルチャーセンター

第3回「食す」篇

美食家・ロッシーニの極上レシピを味わう

日時:2015年3月11日(水)11:30~13:30
会場:カジュアルフランス料理「びすとろばたじえ」
講師:肥田 順さん(びすとろばたじえシェフ・元辻調理師専門学校西洋料理主任教授)

第4回「見る」篇

オペラを作る現場——
「ランスへの旅」ピアノによる舞台通し稽古見学

日時:2015年4月13日(月)17:15集合 17:30~21:00(予定)
会場:フェスティバルホール 案内:オペラ「ランスへの旅」制作スタッフ

天才と神様と若者たち

ロッシェーニと言えば名前は誰もが知っている。「オペラの人だ。でも知っているのは『セビリアの理髪師』と『ウィリアム・テル』の序曲だけ…。イタリアオペラなら、何と言ってもヴェルディやプッチーニだろ」。かつて僕もそう思っていた。とんでもない。ヴェルディもプッチーニもワーグナーさえも崇拜し大いに影響を受けたのが、天才ロッシェーニ。彼こそ19世紀前半の全ヨーロッパを席卷し熱狂させた「音楽界のナポレオン」なのです。

ロッシェーニの陶酔は格別。今や欧米のオペラ界では、様々な作品が復活し人気演目となっている。そのきっかけとも言えるべきは、1984年、彼の生地イタリア・ペーザロでの159年ぶりの蘇演「ランスへの旅」だった。

フランス王の戴冠式の地ランスへ詣でんとする紳士淑女が宿で繰り広げる人間模様を最高のベルカントで描いた物語は、別嬪さんを巡る恋のさや当てや、往年の藤山寛美のような抱腹絶倒のキャラクターに彩られた麗しのオペラ。

「超人的歌唱と音楽の愉悦ここに極まれり…。」世界が目覚め、熱狂がよみがえった。

以来30年、それ以前から常にロッシェーニ・ルネサンスの中心人物にして演奏と研究の「神様」的存在が、今回の指揮者アルベルト・ゼツダである。80代半ばのゼツダだが、その感覚も音楽も何と若々しいこと！ 巨匠のタクトから繰り出されるロッシェーニは、魔術のように人を魅了し心を浮き立たせる！

一度でも聴いたら、もう虜。それは世界のオペラファンの垂涎的だ。

そのゼツダ自らが選んだ海外と日本の若手歌手達が彼自らの指揮で「ランスへの旅」を上演する…。

この話を聞いた時、僕は頬をつねった。「そんな夢みみたいな計画がホンマに実現するん?」と。

実現するのだ、大阪で。しかもゼツダ翁は歌手やオーケストラにみっちり稽古をつけるというではないか。

本当に? 本当だ! 天才ロッシェーニと神様ゼツダ、そして心意気に燃える歌手が融合する至福のオペラ「ランスへの旅」。

ああ、浪速の春が待ち遠しい。



朝岡 聡 (コンサート・ソムリエ&フリーアナウンサー)

(スタッフ・キャスト)

指揮: アルベルト・ゼツダ

演出: 松本重孝

美術: 荒田 良 衣裳: 前岡直子 照明: 服部 基

音楽補佐: 園田隆一郎/牧村邦彦 舞台監督: 菅原多敢弘

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

コリナ (ローマの女流即興詩人): 老田裕子

メリベア侯爵夫人 (ポーランドの末亡人): ターチャ・ジブラッゼ

フォルヴェル伯爵夫人 (ファッションに夢中なフランスの末亡人): イサベル・ロドリゲス・ガルシア

コルテゼ夫人 (温泉宿の女主人): 石橋栄実

騎士ベルフィオーレ (フランスの若き士官で色男): 中川正崇

リーベンスコフ伯爵 (メリベア侯爵夫人に恋するロシアの將軍): アントン・ロシツキー

シドニー卿 (コリナに恋心を抱くイギリスの陸軍大佐): クラウディオ・レヴァンティーノ

ドン・プロフォント (骨董マニアの文学者): 伊藤貴之

トロンボク男爵 (音楽を愛するドイツの陸軍少佐): 三浦克次

ドン・アルヴァーロ (メリベア侯爵夫人を恋慕するスペインの提督): 木村孝夫

ドン・ブルデンツィオ (温泉宿の医者): 西村圭市

ドン・ルイジーノ (フォルヴェル伯爵夫人のいとこ): 松原 友

デリア (コリナが面倒をみている孤児): 高嶋優羽

マッダレーナ (温泉宿の女中頭): 尾崎比佐子

モデスティーナ (フォルヴェル伯爵夫人のお手伝い): 田邊織恵

ゼフィリーノ (使者): 谷 浩一郎

アントーニオ (温泉宿の執事): 田中 勉

「ランスへの旅」フェスティバル・シンガーズ

南さゆり/奥田 愛/瀬戸口文乃/山田 恵/長町香里/北野智子/
森井美貴/諏訪部匡司/谷口耕平/山川大樹/孫 勇太/松浦綾子/
藤原未佳子/斉戸英美子/黒田まさき/浦野裕毅/奥村 哲/伊藤友祐

公演監督: 荒田祐子

「ランスへの旅」東京公演 2015年7月3日(金)・4日(土)・5日(日)、日生劇場
問い合わせは、日本オペラ振興会 044-959-5067(月曜日~金曜日 10:00~18:00)

フェスティバルホール (06)6231-2221 (10:00~18:00)
大阪市北区中之島 2-3-18

京阪中之島線「渡辺橋」駅・地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅より直結



コリナ
老田 裕子



メリベア侯爵夫人
ターチャ・ジブラッゼ



フォルヴェル伯爵夫人
イサベル・ロドリゲス・ガルシア



コルテゼ夫人
石橋 栄実



騎士ベルフィオーレ
中川 正崇



リーベンスコフ伯爵
アントン・ロシツキー



シドニー卿
クラウディオ・レヴァンティーノ



ドン・プロフォント
伊藤 貴之



トロンボク男爵
三浦 克次



ドン・アルヴァーロ
木村 孝夫



ドン・ブルデンツィオ
西村 圭市

入場料 (全席指定、消費税込み)

S席 18,000円 / A席 16,000円 / B席 14,000円 / C席 12,000円 / D席 10,000円

E席 8,000円 / BOX席 23,000円 / バルコニー BOX席 (2席セット) 36,000円

学生席 4,000円 (限定50席/25歳以下/当日指定席と引換え。学生証を持参してください)

※学生席は、2014年12月7日(日)10:00からフェスティバルホール チケットセンター電話予約とオンラインチケットにて発売。窓口販売は12月8日(月)より(ただし、残席がある場合に限り)※バルコニーBOX席はフェスティバルホール チケットセンター電話予約のみ受付

先行予約受付

フェスティバルホール・クラブ会員: 2014年11月23日(日)10:00~
フェスティバルホール オンライン会員: 2014年11月29日(土)10:00~

チケット一般発売 2014年11月30日(日)10:00~

フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00-18:00)

※窓口販売は、12月1日より(ただし、残席がある場合に限り)

フェスティバルホール オンラインチケット (要事前登録) <http://www.festivalhall.jp/> (PC・携帯共通)

チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/> (Pコード247-292)

ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター予約 10:00~20:00)

0570-084-005 (24時間Lコード予約 要Lコード) <http://l-tike.com/> (Lコード56535)

CNプレイガイド 0570-08-9990 <http://cncn.jp/> イープラス <http://eplus.jp/sys/>

〈お問い合わせ〉フェスティバルホール 06-6231-2221 (10:00~18:00)
<http://www.festivalhall.jp/>

主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホール、大阪国際フェスティバル協会、
大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス、日本オペラ振興会(藤原歌劇団)、
ニッセイ文化振興財団、東京フィルハーモニー交響楽団

特別協賛: タイワハウス

協賛: 朝日放送、竹中工務店、ダイキン工業

後援: 在大阪イタリア総領事館、イタリア文化会館-大阪

協力: ペーザロ・ロッシェーニ・オペラ・フェスティバル(アカデミア・ロッシェーニアーナ)

監修: アルベルト・ゼツダ

※出演者・役配などは2014年11月現在の予定です。やむを得ない事情により変更される場合がございます。予めご了承ください。最終出演者は公演当日に発表します。※公演中止の場合を除き、チケットの申し込み後の変更や払い戻しはできません。予めご了承ください。※開演時間に遅れますと、ご入場をお待ちいただくか、指定された場所でののお立ち見のご案内となります。※会場内での写真撮影、録音、録画等はお断りします。※未就学児の入場はお断りします。